サービスラーニング活動報告書

みんながつながる地域づくり

活動先：　愛光園　地他地域障害者生活支援センター

１．活動先紹介

・障害のある方が地域で生活するときに出会う様々な問題について相談を受けてもらうことができます。

・レスパイトサービスといった個人対応で本人が家庭で暮らすために必要な生活サービスや本人の希望にそったすごし方をお手伝いするサービスを行っています。

・平成１３年度にヘルパーステイションを設置し、障害のある人の特性にあった手伝いができるヘルパーの派遣を行っています。

・平成１８年１０月より地域活動支援センターあんどがスタートしました。
平成１８年度１０月の障害者自立支援法本格スタート後も､これまでとおりの支援を続けられるよう、居宅介護、行動援護、重度訪問介護、移動支援授業を行っています。

２．当初の活動目的

・障害者の特性に応じた支援方法を知る。
・一人ひとりの視点にあったコミュニケーション。
・自立支援サポートにかかわる。
・施設のサービス内容を知る
・支援者が全てをやるのでなく、子供たち一人ひとりができることを優先して行う。

３．私たちの活動内容

・一人一人の障害を理解し個別に応じたかかわり方を実践、学びながら活動、
・　自立支援サポートの方法を学ぶ、
・　活動を通してわからないところは、職員の方に聞き理解する。
・　日中生活を共にする。

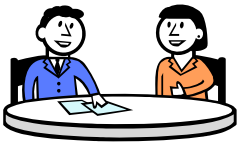
４．活動における疑問・問題点

・普段タッフさんがしていることと同じことをさせてもらったが、自分たちのやりたい事というのができなかった。

・自立課題つくりの工夫は何なのか私たちはなにをできたのか、「自閉症」について勉強不足で、本当に理解したわけではなかった。

・　利用者一人ひとりができることを優先せず、支援者がすべてやってしまう。

・　障害にもよるが一人一人の障害を理解するまでに時間が必要、６日間でどこまで可能か事前学習の仕方も考える



５．サービスラーニングを通して学んだこと、理解したこと

・一人ひとりの子に何が必要か、その場その場で何が必要とされるか。

・コミュニケーション能力、自分から動かなければ何も変わらないこと。

・支援者の意見、提案を押し付けるのではなく、個人を知りペースに合わせた上で、新しいこと（遊び）をすすめてほうがいいこと。

・視覚的、音での区切りが物事の切り替えにつながりやすいということ。

・肯定的に伝える、視覚的に伝える。

・正面から積極的に話しかけたり、ちょっかいをかけたりするコミュニケーションの取り方もあるけど、隣に座って見守ったり、一緒の空間を楽しんだりするコミュニケーションもありだと思った。

・活動先では、コミュニケーションの取り方を中心に学んできた。そこで、コミュニケーションにとり方は人それぞれ違い、様々な方法があることがわかった。

６．グループ研究の成果を踏まえて今後の学びに

・アルバイトなどを利用して「自閉症」の方とかかわるときの上手なかかわり方をもっと深める。

・一人ひとりにあった支援方法というのを見つけることが大切。

・一対一でつかせてもらって、個人を知り接することの大切さを学んだ。

・一緒にすごして楽しいと思ってもらえるよう、たくさん話しかける。

・個人を理解することで対等の関係が築けると思う。

・障害者とのコミュニケーションには、その利用者の特性や癖などを理解した上でかかわりを持つことが大切であることを学んだ。今後は、ひとりひとりの障害や特性について理解することを大切にし、その利用者さんにあったかかわり方でコミュニケーションをとっていきたいと思う。

・普段の私たちのこだわりや個性がつよく表れたものが障害だと思うので、どのようにしたらわかりやすく伝わるか、どのようにしたら喜んでもらえるかを探り、学んで日常生活でかかわる人とのコミュニケーションをスムーズにしたい。

７．活動の提案

・　自立課題を実際に作ってみる。
・　実際にその団体の活動の様子を見学させてもらってから活動に入れたらいい。
・　利用者みんなで何かを創る、遊ぶ。
・　支援者とのかかわりだけでなく利用者同士のコミュニケーションをとる。
・　自閉症や知的障害の子とかかわってみて、自分の気持ちを素直に表にだしてコミュニケーションを図ろうとしてくれる姿みて、得意なこと、苦手なこと、性格を理解することで内心で何を考えているのか理解しづらい障害のない人の気持ちも理解しやすくなるのではないかと思った。
・　今回の利用者とのかかわり方をもつ中で学んだ。その中でさらに自立支援方法についてもっと理解を深めたと思った。

8. 地域活動から学んだ地域活動、私たち、私の想い、考え

・一人ひとりかかえることがあって、それをどのようにして支援していくか、どのようにしたら利用者のかたが安心して暮らすことができるのかを活動を通して学びました。
・「一人だけ」「一つの施設だけ」「一つのＮＰＯだけ」ではなく、みんながつながることによってみんなが住みやすい地域を作ることができる。
・地域にらいふのような活動をしているところがありことによって、家族も自分の時間を作ることができ、子供たちも家族以外の人たちと触れ合う機会ができていいと思う。
・知多地域の障害を持つ子がその場に集まり、同じ空間で過ごす。かかわりは少なくとも、知り合いが増えること、経験の場が増えることはすごくいいことだとおもった。
・障害を持っていたとしても健常者の人と同じように毎日の生活を送っていること、地域の人たちの中で嫌な目で見る人はいるが同じ人間だということを自覚して欲しいと思った。
・ただ言葉だけで伝えるのではなく、視覚的に紙や写真で示したり、表情や声のトーンなどのノンバーバルなコミュニケーションも人とかかわる時の大事な要素だと感じた。
・地域活動を終えて、自分の住んでいる地元の活動にも関心を持ちたいと思った。また、それぞれの地域のニーズにあわせた活動がおこなわれており誰でも利用できるという点で NPO の必要性を改めて感じた。